

第16回全国大会 コンサートin取手



アンサンブルポニー・かつしか

全国大会コンサートin取手に参加して

2020年初頭から蔓延した新型コロナウイルスの脅威にさらされ、この2年余りその防止対策に明け暮れた毎日でした。シニア連盟全国大会もその限りではなかったと思います。その活動の重要性からひと時もながしるに出来ず大会の会場、運営、司会、進行、演奏時間などの開催準備に真面目に取り組んでいたいた実行委員長はじめ関係スタッフの皆様のご尽力の賜物でシニア全国大会in取手大会が無事に開催出来たことに厚く御礼申し上げます。

演奏会の感想としては、第1回から第12回大会まではホールに集まった多くの観客の皆様が私達、中高年のアマチュア楽団が演奏を披露し感動して頂くことに重点が置かれたようでした。しかしこの方式が改められ出演者に会場での楽団の演奏をつぶさに聴くことが出来たので『いまこそ青春！シニアいきいきコンサート』を実感することが出来ました。館内移動で困ることなく、昼食での福祉会館控室以外はホール内に着席して他の楽団の演奏を聴くことができました大変勉強になりました。

山口 善生

取手シニアアンサンブル



コロナ禍の中やっと実現した全国大会であり、しかも会場が地の利の良い取手市民会館でした。幅広い市民の皆さんに、わが取手SE全員の参加の演奏を聞いて頂けたことは、とても嬉しいことでした。限られた持ち時間の中ですが、心を込めて4曲演奏させて頂きました。

最初の演目は「ピーター・ガン」(マンシーニ)です。暗く単調なリズムを刻んでいる途中に、黒い山高帽をかぶり濃いサングラスをかけた「ちよい悪オヤジ」が脇からじわっと入場。オヤジの合図で曲が進み、怪しい旋律が重なり、音楽が俄然輝きを得ます。そのコントラストの鮮やかさが、狙いでした。そのオヤジは、指揮の古谷先生。この演出のおかげで緊張感がほぐれました。会場のお客様からも笑みがこぼれます。

お越し下さった市民の方からは、「演奏した4曲の組み合わせが絶妙で、音楽を堪能した。」(シニア世代)、「演奏している方々がとても楽しそうだった。私たちもこんなアンサンブルをやってみたい。」(40代)という、うれしい感想を頂いたことを申し添えます。 青木正博@ピアノ

下妻シニアアンサンブル



下妻シニアにとっては初めての全国大会参加で、他団体の演奏を鑑賞させて頂いた、とても参考になりました。団員の中には他楽団でも活動している方もいますが、私にとっては、他のシニアアンサンブルの演奏を鑑賞することは初めてで、それぞれの特色を知ることができたことは、大きな収穫となりました。

私は吹奏楽団のでいろいろな演奏活動をしてきましたが、音楽づくりの基本は同じだと思います。しかし、シニアアンサンブルはまず楽しむことを優先するところが大きな違いです。これからも仲間と力を合わせて、演奏する喜び、楽しむ喜びを味わいながら、演奏技術も向上できるように努力してまいります。

代表 鳩貝千春